ま　え　が　き

本書は，アジア経済研究所において，平成14年度から15年度にかけて実施した「アジアにおける環境政策の再検討」研究会および「グローバリゼーション下のアジアにおける環境政策」研究会の成果をとりまとめたものである。また本書は，同じ編者による研究双書『「開発と環境」の政策過程とダイナミズム—日本の経験・東アジアの課題—』（アジア経済研究所，2002年）で行われた議論と残された課題を受けて企画されたものである。

前書から本書にかけて，われわれは一貫して，アジアの経済開発過程で展開されている環境政策の問題点を明らかにし，その処方箋を探ることを目的として，事例研究を積み重ねてきた。まず前書では，環境政策を開発政策など他の政策と関連づけ，その形成・実施過程を具体的な事例を取り上げて政治経済学的アプローチにより分析することを通して，環境政策に関する「日本の経験」を再検討し，東アジアにおける課題を明らかにすることを試みた。そして本書もまた前書における上記の問題意識と方法論を引き継ぎつつ,「日本の経験」を現在のアジアで展開されている環境政策の参照軸として検討する際の議論とその限界を踏まえ，対象国・地域を拡大し，産業公害以外の開発と環境をめぐる争点を視野にいれ，さらにはグローバル化という国際社会の急速な変化を背景にした諸要因を取り込んでいる。こうした一連の作業を通して蓄積されたアジアの経済開発過程における環境政策に関する事例研究が,「開発と環境」をめぐる「日本の経験」の議論や，日本を含め，現在のアジア地域が抱える関連課題の解明に少しでも貢献できれば幸いである。

またこのような作業は，アジア地域の多様性，抱える問題の複雑さ，国際社会や地域社会の絶え間ない変容などを考えると，決して本書だけで完結するものではない。前書から本書にかけてわれわれが行ってきた議論に対して

関心をもつ読者の方々から忌憚のないご意見，ご批判をいただきながら，このような研究活動に対してより多くの方々の理解，支持，そして参画が得られることを期待したい。

最後に，多忙中にもかかわらずヒアリングに快くご協力いただいた諸先生方，現地調査や資料収集にご協力いただいた方々，研究会における議論にご参加いただいた所内オブザーバー諸氏，有益なコメントをいただいた査読者の方々，および本書の編集作業に携わられた方々にここに感謝の意を表したい。

2005年１月

編　　者

◇外部講師ヒアリング開催記録（敬称略。肩書きはヒアリング当時のもの）

2002年７月２日
講　師：吉田克己（三重大学名誉教授）
テーマ：四日市公害，四日市公害訴訟の経緯と環境対策

2002年７月16日
講　師：幡谷則子（上智大学外国語学部助教授）
テーマ：過渡期にある行政・市民関係―コロンビア，ボゴタの住環境改善の事例から

2002年９月25日
講　師：石川雅紀（東京水産大学水産学部食品生産学科助教授）
テーマ：欧州の環境政策－自主規制か法的規制か？―スイス，オランダ，ドイツ，日本

同日
講　師：蟹江憲史（北九州市立大学法学部政策科学科助教授）
テーマ：環境外交と国内政策のダイナミズム―オランダ・EUの経験とアジアへのインプリケーション

2003年１月24日
講　師：北尾進（元神戸市環境局）
テーマ：神戸市における廃棄物行政の経験

2003年６月20日
講　師：伊藤昭治（千葉大学講師・元千葉県環境研究所）
テーマ：千葉県における公害・環境行政の経験―大気汚染とその対策

2003年７月22日
講　師：松本悟（メコン・ウォッチ事務局長）
テーマ：開発援助機関のインスペクション制度の形成・実施過程―NGOの経験から

2003年８月４日
講　師：六車明（慶應義塾大学法学部教授）
テーマ：日本の公害・環境紛争解決システムの特徴と課題